



夏は虫が多いというイメージを持たれている方も多いかと思いますが、私たちが夏バテしたり、熱中症になったりするように、昆虫類も気温が高すぎると活動に支障をきたします。そのため、一年中で気温が最も高くなる盛夏には虫が少なくなりません。

しかし、この時期にも活動が活発になる昆虫もいて、スズメバチ類はその一つです。スズメバチ類は春に女王バチが越冬から目覚め、一匹で巣を作り始めて、産卵、子育てを最初の働きバチが羽化するまで行います。そして、最初の子が働きバチとして羽化した後は、女王バチは産卵に専念し、働きバチが外に出て餌を取ってきたり、巣を大きくしていったり、幼虫を育てたりします。

スズメバチ類の成虫はジュースなどの甘い匂いに誘引されて飛来することもあるため、公園などで飲み残した飲み物を置いておいて、再び飲む際は注意が

主要スズメバチ類の体長と主な営巣場所

	働きバチの体長	営巣場所
オオスズメバチ	27~38mm	切り株 土中等
コガタスズメバチ	22~28mm	植え込み等
キロスズメバチ	17~24mm	屋根裏 軒下等

必要です。また、8月半ばから秋にかけて、スズメバチ類は、働きバチの数が一年で最も多くなり、刺咬被害事例も多くなります。日本における有害生物による死亡事故のほとんどはスズメバチ類によるものであり、毎年平均的に数十人が亡くなっています。日本のスズメバチ類で被害例の多い種はオオスズメバチ、コガタスズメバチ、キロスズメバチの3種です。

よくご家庭で八チの巣に殺虫剤を使用されるケースがありま

よく問題となるスズメバチ類



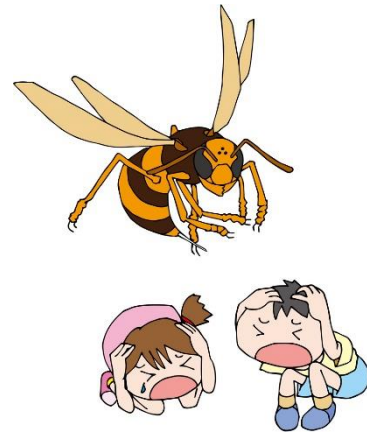
コガタスズメバチ
Vespa analis

オオスズメバチ
Vespa mandarinia



キロスズメバチ
Vespa simillima

すが、かえって八チを刺激してしまうこともあります。蜂の巣の駆除は危険が伴い、八チの種類によって対応の仕方も変わってきます。ご家庭や職場など、八チに巣を作られてしまってお悩みの際は、弊社までお気軽にご相談ください。



今月の豆知識：八工の夏休み

8月に入り、厳しい暑さが続いています。夏には避暑地へ旅行される方も多いかと思いますが、昆虫の中にも暑い環境を避けて移動するものがあり、日本に生息する昆虫ではオオクロバ工という八工の一種が長距離移動することが知られています。

オオクロバ工は、冬の温かい日や春先に市街地でも見ることがができる黒青色の八工であり、本州南部では初夏あたりになると市街地から姿を消します。この八工は日本ではトカラ列島の悪石島より北に生息し、比較的寒冷な気候を好むため、夏季など気温が上昇する時期には北上、または標高が高い場所に移動します。そのため、夏に登山をしているとこの八工に会うことがあります。そして、晩秋から冬の始まりには平地に戻ったり、南下したりするため、再び市街地などで目にするようになります。また、福岡市の海岸ではこの時期に韓国から飛来してきているのではないかと考えられるような観察事例もあります。

このように昆虫類では、夏に生息場所を変えたり、休眠したりするものが多く知られています。私たちの身近にいる多くの虫にとっても夏は過酷な時期なのです。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-1-19-20

TEL 086-241-8080

FAX 086-241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢